

平成二十九年度入学者選抜試験  
個別学力試験問題（前期日程）

国

語

注  
意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十二ページ、解答用紙は一枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

〈問題訂正〉

国語

3ページ 3行目

(誤) 身体感覺の振幅を . . .

(正) 身体感覺の振幅とを . . .

―― 次の文章を読んで、問い合わせよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(鷺田清一『だれのための仕事 労働 VS 余暇を超えて』による。)

(注) ロジェ・カイヨワ——フランスの社会学者（一九一三～一九七八）。  
「私が生れたよりももうひと遠どといろく、そこではまだ可能が可能のままであつたといや」——九鬼周造「音と匂」より  
の引用。

問一 傍線部1～5を漢字に書き改めよ。

問二 傍線部A「遊びといふ心地のよい活動の原初的な要素」とは何か、本文中の語句を用いて三十字以内(句読点を含む)で答えよ。

問三 傍線部B「わたしの奴隸」とは云ふのよつなんとか、簡潔に説明せよ。

問四 傍線部C「緩衝地帯としての身体」について、対比的に用いられている表現を本文中から十五字以内で抜き出せ。

問五 傍線部D「ひとのあいだの遊び」とは何か、筆者の考えに即して説明せよ。

次の文章を読んで、問い合わせに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(鴻上尚史『クール・ジャパン?』外国人が見た「ツボン」による。なお、本文の一部を省略した。)

問 筆者の見解に対してもあなたはどうのとおもひた考へるか。具体例や根拠を示しながら自分の考へを述べよ。(解答は解答欄をほぼ満たす程度とすること。)

(下書き)

--	--	--	--	--	--	--	--

三 次の文章は、源氏の君が、夫を亡くしたある高貴な女性(女君)に思いを寄せるものの、気持ちが通じないことに思い悩む様子を描いたものである。これを読んで、問い合わせよ。

はかなき木草につけても、あはれと御心とまりぬべき折を過ぐさず、心深きさまを見えきこえ ア ど、女君は、なつかしからむ情けもいとどあひなくおぼされて、入づての御答へ、はしたながらぬほどにてやみなむと、おぼしとりつる御心は、さらじゆるぐべうもあひざりけり。

年かへりて、春立つ風にも人の御心はうちとけがたく、つれなきのみまさりゆく人の御ほどをおぼすにも、いとかたじけないとほしくて、えしひてもきこえおもむけたまはず、じさまからざまにおもほしみだれつゝ、ひといの頃は、<sup>A</sup> 大殿には夜離れのみおきつつ、騒がれたまふ。

内裏わたりのどやかなる春のつれづれに、雨さく降りぐらして、日もいと長きに、いとどおもひわび イ では、春の物とてなどちうめがれて、

C うき人に見せばや袖のなみだ川けふのながめにまさる深さを  
今宵も大殿には待ちきこえ ウ を、ひき避きて、かしこにぞ渡りたまふ。

(『手枕』による)

(注) 木草につけて——当時は手紙を季節の草木に結びつけて贈ることが多かつた。

春立つ風——立春に吹く風。氷を溶かすものとされた。「袖ひちてむすびし水の凍れるを春立つ今日の風やとくらむ」

(『古今和歌集』・紀貫之)による表現。

おもむけ——自分の思い通りに従わせ。

大殿——源氏の君の妻。左大臣家の姫君。

春の物とて——春の季節のものとして。「起きもせず寝もせで夜を明かしては春の物とてながめ暮らしつ」(『伊勢物語』第一段)による表現。

ひき避きて——さしおいて。

問一 空欄ア・イ・ウには尊敬の補助動詞「たまる」が入る。空欄にあてはまるよう、適切な形に活用させて答えよ。

問二 傍線部A「いとじあぶなくおぼされて」を口語訳せよ。

問三 傍線部B「つれなさのみまさりゆく」について、誰のどのような状態を表しているか、わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部Cの和歌を掛詞に注意して口語訳せよ。

問五 『古事記伝』や『源氏物語』の小摺なども著した、この文章の作者を漢字で記せ。

次の文章は、韓愈が李公（名は鄭）のために書いた「墓誌銘」の一部である。これを読んで、問い合わせよ。（設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある。）

岌生ミヲ、未タ暉シラ以テ卒シユツス。無シ家カ。母抱置キテ之ヲ姑ヒニ以テ去ル。姑憐ミナフ而テ食ラ之ヲ。

至リテ五二六一歲ニ、自ラ問ヒテ知ル本ヲ末ヲ。因リテB不復与群兒戲トシテ、常默黙トリ獨處ハク。曰ハク

「吾獨無父母。不下力シテ學問ヲ自立セ、不名ツケテ為サ人ト。」年十四五能暗記ス。

論語・尚書・毛詩・左氏・文選凡百余万言。凜然殊異ナリ。姑氏ノ子弟ノ莫シ敢ヘテ為スモノあたるコトヲ敵ヤウヤク。浸ヘテ伝ヲ聞コユ諸父ニ。諸父泣キテハクガ曰ハクガ「吾兄尚有ルD子カト耶。」迎歸ヘテキシテ

而坐すエテ問ベバ之ニ、應對縱橫ニシテ無シ難シハカルコト。諸父悲喜シテ顧語ミテ群子弟ニ曰ハクE「吾為シ汝得師。」於是縱テ學無レ不レ觀。

(『昌黎先生文集』による。)

(注) 岌——李鄭の父、李岌。

暉——生まれて一歳になること。

家——家産、一家の財産。

姑氏——父方のおばの家。

左氏——『春秋左氏伝』

諸父——叔父たち。

問一 傍線部A「本末」について、ここでは何を指すか、具体的に説明せよ。

問二 傍線部B「不復与群兒戲」をわかりやすく口語訳せよ。

問三 傍線部C「子弟」の対義語を漢字二字で記せ。

問四 傍線部D「予」とは誰か、文中の語で示せ。

問五 傍線部E「吾為汝得師」について、

- (一) すべて平仮名で書き下し文にせよ。現代仮名遣いを用いてもよい。
- (二) 「諸父」がそのように判断した理由を述べよ。